第１回運輸交通部会（オープン部会）部会長報告

日　時　２０２４年８月９日（金）１５：３０～１７：００

場　所　秋田県庁第二庁舎　８Ｆ　大会議室

出席者　正副部会長・部会員・他部会員・
県内行政機関・一般　１１０名

内　容　懇 談
テーマ「『希望最低』を超えて」
講演者 ㈱LIFULL　LIFULLHOME’S総研
所長　島原　万丈　氏

懇談内容　概要①

- 「地方創生」のきっかけは2014年に日本創生会議が出した通称「増田レポート」であり「2040年までに全国約1,800市町村のうち約半数(896市町村)が消滅する恐れがある」という結果が、全国の自治体に震え上がるほどの恐怖を与えた。
- 「地方創生」は東京一極集中を止め、地方の人口を維持することが大きな目標だが、若者へのアンケートを取ると「仕事がないから」「大学がないから」といった理由が挙げられ、それに対応する政策は、Uターン・Iターン・移住促進させる政策が多くなっている。私はそこに違和感を感じていた。
- 人は自分が幸せになれる場所に住みたいと考える。地方創生の重要なポイントは、地方に住んでいても東京に住んでいても、そこに住んでいることが幸福だと感じる場所を目指すという事。

懇談内容　概要②

- 地域の県民性や社会の雰囲気等の「寛容性を図るための調査」を行った結果、東京圏の高さが際立ち、秋田県は46位。また、昨年公表したレポート「地方創生の希望格差」の調査結果では、地域の希望が秋田県は最下位だった。
- 地域の寛容性と人口の社会増減率は非常に強い相関関係がある。
- 「希望」の高低が定住意向や地域づくりへの挑戦意欲等に大きな影響を与えており、人口減少と地域の希望は強い相関関係がある。
- 地域の希望にプラスをもたらす要因として生活環境の満足度や感性の若々しい高齢者の存在等が挙げられるが、最大の要因は政治行政への信頼。市民等への情報発信が特に重要。月イチの広報では不足。

懇談内容　概要③

- 地域の希望を生み出すには、街に好ましい変化が生じていると市民が認識できれば、人口減少へのネガティブな認識は変えていける。価値観が違ったとしても多様性を尊重し合うことで、新しい視点・アイデア・想像力が生まれ、未来の希望が作られていく。
- 相関関係だけでなく因果関係を調査するため、外部の大学専門家に依頼して分析した結果、「政治行政への関心・信頼度」と「街の動き」は「地域の未来への希望」にかなり強い因果関係があり、「地域の未来への希望」が個人の「人生評価」「生きがい」に影響を与え、さらには地域参画への意欲につながっている。
- 「地域社会の寛容性」は、「ひとの動き」や「まちの動き」に強い因果関係を持っており、地域の人や街の変化につながっている。

懇談内容　概要④

- 他人に対して寛容であるかどうかが、地域社会における変化のベースとなる。寛容には自分が嫌なことを我慢して受け入れるという意味があり、多様性を認めるという事である。
- シャッター街を見て、この地域はもう終わりだと見ることもできるが、可能性の宝庫と見る人もいる。同じ風景でも、着眼点やアイデアの違いだけで行動が変わってくる。今までの自分の考え方だけを正しいと考えず、違う考えを認めることで社会は変わっていく。
- 秋田の方々は現状、人口減少を後ろ向きに捉えているかもしれないが、地方創生は、今は未だ無い未来を遊ぶことからはじまる。感性の若々しい高齢者を増やし、異質な若い人を応援する風土を創れば、未来は変わっていく。

参考

≪LIFULLHOME’S総研　レポート≫

●地方創生のファクターX　～寛容と幸福の地方論～　2021.9
https://www.homes.co.jp/souken/report/202108/

●“遊び”からの地方創生　～寛容と幸福の地方論Part2～　2022.9
https://www.homes.co.jp/souken/report/202209/

●地方創生の希望格差　～寛容と幸福の地方論Part3～　2023.9
https://www.homes.co.jp/souken/report/202309/